

サツマイモ基腐病 まん延防止のための 収穫後の対策について

九州を中心に大きな被害を出しているサツマイモ基腐病が、県内で発生しています。

本病のまん延や次作の被害等を抑えるために、**サツマイモ収穫後に以下の対策を徹底しましょう。**



▲感染し腐敗したイモ（下：断面）

サツマイモ基腐病とは

- ・病原菌 糸状菌の一種(カビ)
- ・寄宿主物 ヒルガオ科(主にサツマイモ)
- ・症状 感染した株は茎の地際部が黒変～黒褐色に変色し、茎葉は黄色や紫色に変色して、症状が進むと壊死します。イモでは主に、なり首側(茎のつけ根側)から**褐色～暗褐色**に腐敗します。

サツマイモ収穫後の重要な対策

○ 収穫したイモの対策

- ・保管中のコンテナ内に感染したイモがあると周囲のイモにも伝染するので、保管前に、**疑わしいイモは除去する。**
- ・イモの収穫後に症状が明確に出ることがあるので、**イモの貯蔵中も発症の有無を定期的に確認する。**

○ ほ場での対策

- ・収穫後のほ場は冬期に入る前に**早めに耕うん**して、ほ場に残ったサツマイモ残さの分解を促進させる。
- ・基腐病は排水が不良な場所で発生しやすいため、ほ場周囲の排水溝の設置や詰まりの除去、ほ場の均平化などの**排水対策を徹底する。**
- ・ほ場で用いた**農機具や長靴等はよく洗浄**し、他のほ場への伝染に気をつける。また、他の人との農機具等の貸し借りは極力行わない。

次作(翌春)に向けての注意点

病気を「持ち込まない」「増やさない」「残さない」対策を徹底する。

病気を「持ち込まない」対策

- ・ 本病がまん延している地域からの種イモや苗の購入は、慎重に検討して行う。
- ・ 種イモや苗は傷や腐敗が無いか確認し、健全なものを使う。また、植付け前の苗は必ず登録薬剤で消毒する。

病気を「増やさない」対策

- ・ 発病がみられたほ場では、サツマイモ以外の作物との輪作を行う。

病気を「残さない」対策

- ・ ほ場の土壌消毒を、ビニール等で必ず被覆して実施する。ただし、周辺に宅地等があるほ場では実施せず、他の対策を徹底する。

〈参考：サツマイモ基腐病に登録がある農薬の例〉

(R3年10月時点)

※ 農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容を農薬メーカーのホームページ等でよく確認してください。

薬剤名	希釈倍率	使用量	使用方法	使用時期	使用回数
ベンレート水和剤	500～1000倍	—	30分間苗基部浸漬	植付前	1回
ベンレートT水和剤20	200倍	—	30分間さし苗基部浸漬	植付前	
バスアミド微粒剤		30kg/10a	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する	植付21日前まで	1回
ガスタード微粒剤		30kg/10a	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する	植付21日前まで	

本病に係る相談については、以下のいずれか、もしくはお近くの県農林振興センターに御連絡ください。

埼玉県農産物安全課 電話：048-830-4053
埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661

